

尾ノ上の風

第19号



学ぶ きたえる 助け合う

文責:校長 村上 正祐

給食に感謝 給食記念週間

明治22年に始まった学校給食は戦争で中断し、戦後12月24日に復活して、その1か月後の1月24日を給食記念とすることが決まったそうです。今年は1月24日から31日が記念週間です。

給食は栄養士の先生方が成長期の子どもたちに必要な栄養素とカロリーを考え、食材も衛生・安全面をクリアしたものを業者の方が学校に納入し、調理員の方が手間をかけておいしく提供してくださっています。世界的に見てもこれだけのシステムを作っている国はありません。

以前勤めていた学校に、日本の給食の様子をぜひ見せて欲しいと中国から数人の方がいらっしゃったことがありました。その中で医者をされている女性の方は、日本の給食のすばらしさを改めて絶賛されて、自分の国でもこうした給食のシステムを子どもたちに提供したいと熱く語って帰られたことがあります。

今週22日の児童集会で給食委員会の子どもたちが給食記念週間にちなんで発表をしてくれました。今回は尾ノ上小学校の給食室の1日を栄養職員の渡辺先生がビデオ編集した映像を見せながら、子どもたちがクイズを出したので、子どもたちの関心が高かったです。

普段目にすることができない様子や調理員の先生からの注意のお願いをビデオで見て、改めて給食に携わる方々への感謝の気持ちをもつことができました。食品ロスなどにも関心が高まる昨今です。改めて食への感謝を持ち直す週間にしたいと思います。



集会で発表する給食委員会の子どもたち



北校舎1階に掲示された記念週間の作品

学校のことを知ってもらおう

学校で行われていることは案外わからないものです。私も我が子が通っていた小学校、中学校でどんなことが起こっているのか、我が子が話す以外のことは知らないことが多かったです。

ましてや地域の方々はお子さんも大きくなって関わるのが少ないので知らないことばかりです。

学校のことをもっと知っていただきたいという願いをもっていただけたところ、昨年の3月末から老人会・公民館・オバパト隊合同連絡会に加えていただき、月に1回の例会で学校の様子をiPadを使って紹介しています。特に、授業がどのように変わっていくのか、子どもたちがどのようなことに取り組んでいるのかをお話ししています。反対に、地域の方からは子どもたちの地域での様子を教えていただいています。子どもたちは地域で見守っていきますからという力強い言葉をいただいて改めて尾ノ上の地域力の高さを感じています。

気になること

3学期になって、休日明けの運動場や森にゴミが残されたままになっているのが多くなりました。おそらく学校にお菓子などを持ってきて食べたのでしょうか、2学期までは自分で持ち帰る子が多かったと思います。自分たちの学校をきれいに保つことができただけに大変残念です。

また、ほうきやトンボ引きなどの用具もバラバラになっていることがあるそうです。屋外用トイレがありますが、汚れていることが案外多いという報告を受けています。

遊び場が少なくなり、サッカーや野球などの遊びが禁止になっている現代だからこそ、だれもない学校で、遊びにきた子どもたちが友達と元気よく遊んで楽しい時間を過ごしてほしいなと思います。それだけにマナーを守って利用してほしいなと思います。

ご家庭や地域の方々も、もしお近くを通られて好ましくない様子を見かけられたら、声掛けをしていただくと大変ありがたいです。

こんにちは！お仕事&授業拝見31 6年2組算数 奥園先生編

奥園先生の授業を参観しました。授業を参観して感じたことは、

①先生の愛情ある言葉かけでクラスが温かくて対話のある学級の雰囲気になっている。②ICTの使い方でテンポのある導入、対話のバリエーションがうまれている。③思考を苦手とする子どもたちにも思考することの楽しさを味わわせる手立てが素晴らしい ということを実感した授業でした。

導入5分で、本時の課題につながる図形を電子黒板で次々に見せて公式を言わせましたが、実にテンポよく変化のある繰り返しで一気に授業モードへ。授業のメインの課題は、正方形の中に描かれたラグビー型の図形の面積を求める問題で、「この図形を見て何か見えましたか」という問いかけのすごさに私は唸りました。子どもたちからはこの図形の中に円が2つある、正方形がある、などいろいろな発言が出ました。ある子どもが、「正方形に斜めの線を引くと三角形が見える」と言った時に他の子どもたちが「おお～、すごい！！」と素直に驚くこのクラスの雰囲気も対話を活発にさせていると感じました。授業は、正方形や4分の1の円、三日月の部分など見えてきた図形の面積をあらかじめ計算してデータを与えて計算の煩雑さを取り除き、面積の求め方をいろいろ試行できるように「思考すること」に特化させた方法でした。また、アナログ的にはさみで斜めに切って三日月と三角形に分けるところを見せて具体的なイメージを与えて考えるヒントにしたかと思えば、iPadでクラス全員の考えを一覧表で示し、気になった友達のところへ行ってみたり、先生にお尋ねに行き相談したりと自由度がありました。最後は、机をコの字型に配置した学級全体の対話で練り上げるといって、子ども主役の授業でした。



友達と対話する前に各自じっくり考える



奥園 洋子(おくぞの ようこ)先生 尾ノ上小1年目

【奥園先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

1年～4年生までは、泣きながら連れてこられて登校したり、人前でしゃべれずに泣いたりする子どもでした。5・6年のときに本当に素敵な先生と出会いました。教室にいただけで安心感のある先生でした。「大造じいさんとがん」の授業を今も覚えているくらいです。

こんにちは！お仕事&授業拝見32 3年1組算数 山田千聖先生編



3年生とは思えぬ位、iPadを使いこなし、友達と話し合う3の1

山田先生の授業を参観しました。授業を見て感じたのは、

①子どもたちの話す力、聞く力がのびている、②ICTの日常的な指導により集中力がない子どもも学習活動に向かっている、③振り返りで書く力をつけている、④先生の笑顔の表情、全体と個人を意識した視線の配り方、雰囲気づくりがとてもよい、ということを実感しました。

授業のはじめは前の時間にノートにいいねの印をつけた5人の子に振り返りを読ませることから始まりました。発表が終わると手拍子をしたり、「グッドジョブ」と言ったりしながら、体を相手に向けてといった「聞く」態度がクラス全体継続され、ゲームのような楽しさがありました。また、話す力の指導は、発表者が「話していいですか」「～というのは、～ですね」といった言い方を積み上げてきている成果がでていいるなと感じました。

この後、教師自作のメモと作文の両方を電子黒板で見せました。ICT活用はさすがです。この作文に、子どもに点数をつけさせて理由を言わせていました。発言の意味がわからないときに、他の子たちに考えさせて発言させるなど、発表を聞いていてすごい子が育ってきているなという驚きが正直な感想です。文が長すぎるから、こそあど言葉でまとめた方がいいと発言した女子児童や、教科書を持ち出して、その教材文に使ってあるからこうした方がいいと発言した女子児童がいたことです。それと同時に学級全体がそれに対して「わあ、すごい」という素直な反応をしていたところにこの学級の成長を感じました。あたたかい雰囲気の授業で、集中している姿が素晴らしいと感じました。



山田 千聖(やまだ ちさと)先生 尾ノ上小2年目

【山田先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

子どもに教えるボランティアをしたとき、ある小学校3年生の子が「自分はバカだん」と言ったことが衝撃的でした。カウンセラーも考えたのですが、教師になってかかわりたいな、困っている子をどうにかしたいなと思ったことがきっかけです。